

テナガコブシとダンゴイカの採捕

令和 6 年 12 月 11 日に羽田国際空港 D 滑走路周辺（図 1）で実施した貝桁網調査（水深約 20m）で、テナガコブシが採捕されました（図 2）。テナガコブシはその名の通り長いハサミ（鉗脚）を持ち、甲羅の後ろ側中央に 1 本の突起があることが特徴です。本種は男鹿半島から東京湾および九州の両沿岸にかけて分布し、水深 10-180m の砂底や砂泥底に生息します。当協会がこれまで東京湾湾奥で実施してきた調査では、コブシガニの仲間としてマメコブシガニ、ジュウイチトゲコブシ、ツノナガコブシ、ヒラテコブシの 4 種が採捕されていましたが、テナガコブシは今回が初めての採捕例となります。



図 1 調査海域（○）

また、同日の調査ではダンゴイカも採捕されました（図 3）。ダンゴイカはこれまでの当協会の調査で、平成 30 年 5 月、令和元年 12 月に C 滑走路周辺で採捕されており、今回が 3 例目の採捕となります。ただし、D 滑走路周辺での採捕は今回が初めてです。

D 滑走路は平成 22 年から供用が開始された新しい滑走路で、当協会では、平成 25 年から D 滑走路周辺の調査を実施しています。これまでの調査で魚類は 57 種確認されています。一方、底生性の貝類は 10 種しか確認されておらず、底生生物が生息するには厳しい環境といえます。特に夏期の調査では、貧酸素の影響により底生性生物の採捕はほとんどありませんが、秋から冬の調査では、今回のテナガコブシやダンゴイカのように底生性生物の採捕数が増える傾向がみられます。



図 2 テナガコブシ
(*Myra fugax*)



図 3 ダンゴイカ
(*Sepiolo birostrata*)